

米国の大学における教育プログラムの国際化について

ワシントン研究連絡センター

谷垣 幸太 (京都大学)

## 1. はじめに

グローバル化が加速する今日の国際社会において、諸外国が高等教育の戦略的な取り組みを行うなか、我が国の大学についても積極的な変革が求められている。2009-2010年には過去最大の69万人を超える留学生を受け入れた米国<sup>1</sup>においても、今なお国外からの優秀な留学生数を増やすこと、また、自国の学生に海外留学経験を積ませることに重きを置く点については我が国と変わらない。

米国の教育プログラムの国際化における傾向としては、2008-2009年には僅かではあるが、サマー・プログラムなどの短期留学数が減少し、1セメスター制などによる中長期留学数が増加<sup>2</sup>している。これは単位互換を可能とした留学や、ダブル・ディグリー・プログラム等の新たな制度が一般化してきたことによるものと考えられる。また、米国ではこのような制度を推進するために、連邦政府の支援による様々な教育プログラムが実行されている。

我が国でも平成22年5月にダブル・ディグリー・プログラム等の制度についてのガイドラインが中教審より発表されたこともあり、今後、教育プログラムの国際化はますます活発になっていくであろう。我が国の大学のさらなる国際化を図るうえで、米国の大学における教育プログラムの国際化についての取り組みを調べたい。

## 2. 連邦政府による支援について

### 2-1. 教育省 (Department of Education) による支援

連邦政府による大学への支援は教育省が行っており、なかでも国際プログラムへの支援は後期中等教育局 (Office of Postsecondary Education: OPE) 内の国際・外国語教育室 (International and Foreign Language Education: IFLE) <sup>3</sup>が行っている。

現在、IFLE が取り扱っている国際プログラムのひとつとして、米国と欧州で行われている欧州-米国高等教育協力プログラム (European Union-United States Atlantis Program) がある。

### 2-2. 欧州-米国高等教育協力プログラム<sup>4</sup>

本プログラムは、1990年に米国と欧州共同体 (当時) で結ばれた「大西洋宣言 (Transatlantic

---

<sup>1</sup> Institution of International Education “Open Doors 2010”

<sup>2</sup> 同上

<sup>3</sup> 2010年10月1日より国際プログラム担当部署が OPE 内 (Fund for the Improvement of Post-Secondary Education: FIPSE) より IFLE に移管された。

<sup>4</sup> Education, Audiovisual and Culture Executive Agency “EU-US Atlantis Programme compendium EU-CANADA and EU-USA (2004-2007)”

Declaration)」に端を発し、1995年に第1期、2000年に第2期の協定が結ばれており、現在は2006年から2013年までを期間とする第3期の途中にある。また、本プログラムは教育省と欧州委員会（European Commission）がそれぞれの国の大学に支援を行うことで、これまでに100を超える学術コンソーシアムの形成と、4000人を超える学生交流が実施されている。

なお、2007年から本プログラムは次の3テーマにより実施されている。

#### ①Transatlantic Degree Consortia Projects

欧州-米国間の大学による複数学位（Dual, Double or Joint Degree）を取得できる教育プログラムの設置を促進する。

#### ②Excellence in Mobility Projects

複数学位などは授与しないが、サマー・プログラムなどの短期留学を支援し、欧州-米国間における学生の流動性（Student Mobility）を促進する。

#### ③Policy-Oriented Measures

欧州-米国間の研究、セミナー、およびワークショップ開催などによる交流を促進する。

このなかでも、Transatlantic Degree Consortia Projects は他国の大学との複数学位取得のための教育プログラム設置に助成金を出して支援するという試みを行っており、また、大学院生を対象としたものだけでなく、我が国ではまだ事例の少ない学部学生（Undergraduates）を対象とした複数学位プログラムについても支援を行っているため、今後こういった交流が活発になることを想定しつつ、米国大学での取り組みや事例について調査を行った。

### 3. 現地の大学でのインタビュー

現在の3テーマ体制になった2007年以降に、欧州-米国高等教育協力プログラムに採択され、学部学生を対象とした複数学位プログラムを実施している次の3大学の担当者にインタビューを行った。

表1: 調査を行った大学・担当者一覧

	大学名	プログラム担当者名
1	マサチューセッツ大学ボストン校	Prof. Arthur Goldsmith
2	イリノイ大学シカゴ校	Dr. Valerie Werner
3	ペンシルヴェニア州立大学ユニバーシティパーク校	Prof. Jamie Myers

#### 3-1. マサチューセッツ大学ボストン校（University of Massachusetts Boston）

##### ●プログラム名

## TraDIS (Transatlantic Bachelor's Degree Program in Information Systems)

### ●採択期間

2008年9月1日～2012年8月31日

### ●助成金

447,078米ドル/4年間

### ●実施大学

- ①マサチューセッツ大学ボストン校 (以下 UMB)
- ②マサチューセッツ大学ダートマス校 (University of Massachusetts Dartmouth、以下 UMD)
- ③ケミ・トルニオ応用科学大学 (Kemi-Tornio University of Applied Sciences、フィンランド、以下 KT)
- ④フランクフルト応用科学大学 (Frankfurt University of Applied Sciences、ドイツ、以下 FU)

### ●プログラムの特色

それぞれの大学が得意とする情報システムとビジネス、コンピュータ・サイエンスを掛け合わせたプログラムを提供することにより、幅広い分野、グローバルに対応できる人材を養成する。

### ●得られる学位

プログラム終了者は本校 (Home University) の学位、および対応校いずれかの学位<sup>5</sup>の2つを取得することができる。

### ●スケジュール

米国の学生は2年次の第4セメスターより、欧州の学生は1年次の第2セメスターよりプログラムに参加する。それぞれの大学から6名ずつ選抜された24人が1コホート (集団) となり、1セメスターずつ4大学を巡回して学習する。

図1: マサチューセッツ大学ボストン校による複数学位プログラム・スケジュール (網掛け部分)

US (4年制) 〈セメスター〉	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年	
	1	2	3	4	5	6	7	8
UMB 学生	UMB	UMB	UMB	UMD	UMB	KT	FU	UMB
UMD 学生	UMD	UMD	UMD					UMD

EU (3年制) 〈セメスター〉	1 学年		2 学年		3 学年	
	1	2	3	4	5	6
KT 学生	KT	UMD	UMB	KT	FU	KT
FU 学生	FU					FU

### ●語学

<sup>5</sup> 米国側の学生であれば KT、FU いずれかの大学の学位を得ることができる (いずれかは任意になるとのこと)。2009年9月から実施されたプログラムのため、インタビューを実施した2011年1月時点で、本プログラムでの複数学位取得者はまだ出ていない。

本プログラムにおける授業はドイツ、フィンランドの大学であってもすべて英語で行われる。

#### ●助成金の使途

教育省からの助成金は主に米国側学生の海外渡航費や海外での生活費に充てられる。

#### ●問題点

担当者によると、ドイツ、フィンランドの学生にとって米国への留学は魅力的であるが、米国の学生にとって両国への留学はあまり魅力を感じない<sup>6</sup>ようで、志望者が少ない。現在、米国側学生の参加者は定員割れを起こした状態でプログラムは実施されているとのこと。

また、セメスター開始時期に合わせた学生周知が徹底されていないことや、プログラムに興味を持った学生がいても学年によって諦めざるを得ない（途中参加できるような柔軟なシステム設定になっていない）こと、複数の分野を統合する学際的な教育プログラムが、学生のニーズにうまく合致していないことなどが問題点として挙げられた。

#### ●今後の予定

教育省からの支援は4年間であるが、現在でもプログラム運営上の大学の金銭的負担が大きく、効果も見られないため、採択期間満了後は本プログラムを打ち切る予定であるという。

### 3-2. イリノイ大学シカゴ校 (University of Illinois at Chicago)

#### ●プログラム名

Undergraduate Dual Degree Program in Urban Planning

#### ●採択期間

2007年9月1日～2010年2月1日

#### ●助成金

408,000米ドル/4年間

#### ●実施大学

- ①イリノイ大学シカゴ校(以下 UIC)
- ②西イングランド大学 (University of West England、イギリス、以下 UWE)
- ③ポリテクニコ・ディ・ミラノ大学 (Politecnico di Milano、イタリア、以下 PLM)

#### ●プログラムの特色

近代都市計画のさきがけともいえる都市シカゴを中心として、都市再生 (Urban Regeneration) をテーマに各国の都市作りを学んだグローバルな人材を養成する。

#### ●得られる学位

プログラム終了者は3大学それぞれの学位が取得できる。

#### ●スケジュール

---

<sup>6</sup> ドイツ、フィンランドとも米国学生の留学先国トップ5 (1位:イギリス、2位:イタリア、3位:スペイン、4位:フランス、5位:中国) には入っていない。(Open Doors 2010)

米国、欧州の学生とも2年次の第3セメスターよりプログラムに参加する。UIC6名、UWE3名、PLM2名、合計11人が1コホートとなり、米国では2セメスター、欧州各国は1セメスターずつ巡回して学習する。

図2: イリノイ大学シカゴ校による複数学位プログラム・スケジュール（網掛け部分）

米国（4年制） 〈セメスター〉	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年	
	1	2	3	4	5	6	7	8
UIC 学生	UIC	UIC	UIC	UIC	UWE	PLM	UIC	UIC

欧州（3年制） 〈セメスター〉	1 学年		2 学年		3 学年	
	1	2	3	4	5	6
UWE 学生	UWE	UWE	UIC	UIC	UWE	PLM
PLM 学生	PLM	PLM	UIC	UIC	UWE	PLM

#### ●助成金の使途

教育省からの助成金は主に米国側学生の海外渡航費や海外での生活費に充てられる。

#### ●語学

ポリテクニコ・ディ・ミラノ大学の授業はイタリア語で行われる。イタリア語修得のための授業は本プログラムで渡伊する前に行われるが、イタリア語での授業による単位取得は学生にとって大変な負担であるという。

#### ●問題点

プログラム実施中にもかかわらず、イリノイ大学運営委員会において複数学位制度が認められず、残念ながら一年で本プログラムは打ち切られることになった。また、プログラムに参加していた学生はこの理由により複数学位を取得することができなかった。

#### ●今後の予定

プログラム終了後に行われた事後評価において、参加学生からの聴取によるプログラム評価が行われたが非常に好評であり、担当者も可能であれば続けたかったとのこと。現在では学位授与が伴わない「交換留学」をいずれの大学とも継続して行っている。

### 3-3. ペンシルヴェニア州立大学（Pennsylvania State University）

#### ●プログラム名

CIRT (Consortium for Intercultural Reflective Teachers) Transatlantic Consortia Project

#### ●採択期間

2007年9月1日～2011年8月31日

## ●助成金

334,214 米ドル/4 年間

## ●実施大学

- ①ペンシルヴェニア州立大学（以下 PSU）
- ②チチェスター大学（University of Chichester、イギリス、以下 UC）
- ③ヨンショーピング大学（Högskolan i Jönköping、スウェーデン、以下 HJ）

## ●プログラムの特色

多文化交流を目的とした教員養成コンソーシアム（CIRT）のもと、各国の教育制度を学び、グローバルな視野を持った教員を養成する。

## ●得られる学位

本校（Home University）の学位、および協定校の学位を得ることができる<sup>7</sup>。

## ●スケジュール

米国の学生は3年次の第5セメスターより、欧州の学生は2年次の第3セメスターよりプログラムに参加する。PSUからは8名、UC、HJからはそれぞれ4名ずつ、合計16人が1コホートとなり、米国は2セメスター、欧州各国は1セメスターずつ巡回して学習する。

図3: ペンシルヴェニア州立大学による複数学位プログラム・スケジュール（網掛け部分）

米国（4年制） 〈セメスター〉	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年	
	1	2	3	4	5	6	7	8
PSU 学生	PSU	PSU	PSU	PSU	UC	HJ	PSU	PSU

欧州（3年制） 〈セメスター〉	1 学年		2 学年		3 学年	
	1	2	3	4	5	6
UC 学生	UC	UC	UC	HJ	PSU	PSU
HJ 学生	HJ	HJ	UC	HJ	PSU	PSU

## ●助成金の使途

教育省からの助成金は主に米国側学生の海外渡航費や海外での生活費に充てられる。

## ●語学

本プログラムにおける授業はスウェーデンの大学であってもすべて英語で行われる。

## ●問題点

担当者によると、多国間によるプログラム設置当初こそ混乱したもの、以降の運営は順調であるという。

<sup>7</sup> PSU 学生は HJ の学位を、UC 学生は PSU と HLK の学位を、HJ 学生は PSU の学位を得ることができる。これは UC の問題により複数学位が現状では授与できないとのこと。

## ●今後の予定

年々プログラムへの参加を希望する学生は増えており、合格倍率が上がっているという。2011年8月末をもって教育省からのプログラム採択期間満了となるが、今後も本プログラムは継続して行われるとのこと。ただし、学生への金銭支援がなくなるので、学生は海外留学のための奨学金などを別に取得しなければならないという。

## 4. まとめにかえて

今回の調査結果において、次の3点を特筆すべき点として挙げる。

### 「1. 単位の実質化」

他国の大学と複数学位を授与するプログラムを設置するにあたって大きな問題となるのが単位互換である。調査を行った大学では、欧州の大学についてはヨーロッパ単位互換システム（European Credit Transfer System; ECTS）が普及していること、また、米国の大学については大学評価団体による厳しいアクレディテーションが行われているため、他大学への転学、2年制大学から4年制大学への編入学の際の単位互換が一般的なものとなっていることから、欧州-米国間の大学における単位互換も大きな混乱なく行われたという。

### 「2. 学生の金銭的支援」

教育省からの助成金の使途については、調査を行った大学では主に学生の海外渡航費、海外での生活費として支給が行われていた。やはり、留学に際して問題になるのは学生の金銭的負担であるという。ペンシルヴェニア州立大学の例を見ると、プログラムの採択期間中は学生への支援金が支給されるが、採択期間終了後にはこれが打ち切られる。このため、学生は別に自ら奨学金などを取得しないといけなくなるにも関わらず、プログラム参加希望者は増加しているという。この事例は、助成金によりプログラムを立ち上げて確かな実績を作れば、制度は継続するという、スタートアップ経費の使われ方としては最良のものであろう。

### 「3. 語学」

語学については、調査を行った大学では唯一、イリノイ大学のプログラムでイタリア語の修得を必要としたが、それを除いては全ての大学で英語による授業が行われた。しかし、英語を母語としない国の大学であっても、学生の高い英語運用能力により語学による問題が起こることはなかったという。

以上3点はそのまま我が国の大学の国際化が抱える問題であると言える。これらについては、これまで議論が重ねられていることであるが、今回、調査を行って改めて強く実感した。

日本の大学の教育プログラムの国際化を図るには、世界に開かれた「単位の実質化」を実現していかなければならないし、「学生の金銭的支援」を行うことで、経済的な理由から学生の学習機会を奪うことがないようにしなければならない。また、我が国の大学が世界に向けて門戸を開くにあたっては「語学」のハードルをクリアしていくことは必須であろう。

このように、現在、我が国の大学に求められているものは非常に大きいですが、一大学職員として取り組まなければならない課題として真摯に受け止めたい。

## 5. 謝辞

インタビュー協力にに応じていただいた各大学の担当者、そして、今回の研修機会を与えていただいた日本学術振興会、京都大学の関係者には多大なるご支援をいただきました。この場を借りて感謝を申し上げます。

## 6. 参考資料等

文部科学省ウェブサイト <http://www.mext.go.jp/>

国際教育研究所ウェブサイト <http://www.iie.org/en>

米国教育省ウェブサイト <http://www.ed.gov/>

欧州委員会ウェブサイト [http://ec.europa.eu/education/eu-usa/doc1156\\_en.htm](http://ec.europa.eu/education/eu-usa/doc1156_en.htm)

マサチューセッツ大学ボストン校ウェブサイト <http://www.umb.edu/>

イリノイ大学シカゴ校ウェブサイト <http://www.uic.edu/uic/>

ペンシルヴェニア州立大学ウェブサイト <http://www.psu.edu/>

文部科学省：我が国の大学と外国の大学間におけるダブル・ディグリー等、組織的・継続的な教育連携関係の構築に関するガイドライン

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1294338.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1294338.htm)

EU-US Atlantis Programme compendium EU-CANADA and EU-USA (2004-2007)

[http://eacea.ec.europa.eu/bilateral\\_cooperation/eu\\_us/results\\_projects/documents/bilatera\\_l\\_eu\\_us\\_compendium\\_2004\\_2007.pdf](http://eacea.ec.europa.eu/bilateral_cooperation/eu_us/results_projects/documents/bilatera_l_eu_us_compendium_2004_2007.pdf)